



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC3 月第 3 例会 (2016.3.15) No.3126

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

亀倉雄策

大正四年 (1915) ～平成九年 (1997)

新潟平野を眼下の弥彦山 (634 ㍎) をまぢかに見る燕市 (旧西蒲原郡吉田町) に、父・亀太郎、母・マスの四男二女の末っ子として誕生。亀倉家は大地主で、幼年期は広大な敷地で兄弟で遊んだほか、母の実家も賀茂神社の神主で、版画家の棟方志功が、「越後・加茂の社家の庭」という版画を制作している。

だが、小学校入学後間もなく、亀倉家は没落し、一家は東京の郊外、武蔵境に移り住むことになった。

小学校、中学校は、雑木林が残る武蔵野で育った。日大二中での成績は、綴り方と図画の成績が抜群で、二年生の時の修学旅行の作文が全校の最優秀賞に選ばれた。また、デザイナーとしての片鱗は、中学生の頃からで、定規やコンパスを使った幾何学的な図形を好んで描いた。この頃観た、近代ポスターデザインの祖と言われるカッサンドルのポスターに感動し、グラフィックデザイナーを目指す決意を固める。

昭和八年、中学を卒業すると、太田英茂の主宰する広告事務所が、「少年図案家を求む」という募集広告に応募し、百四十数人の中からただ一人採用された。

事務所では「少年図案家のカメさん」と呼ばれ、本格的なデザインへの道をスタートさせた。しかし、思うところがあり数か月で会社を辞め、フリーの道を歩むことになった。

雄策は、図案の世界に固守せず、伝達という目的を持った表現様式を模索していた。やがて、第一書房の、「自由日記」、サン・テグジュペリの「夜間飛行」の装幀を手掛けることになった。この時、十九歳という若さであった。

雄策は、雑誌の映画評論も手掛け、「日本映画は呼吸する」というタイトルで、小津安二郎、山中貞雄らの初期作品を書いている。

また、昭和十一年、日本を訪れたジャン・コクトーを、友人でフランス留学の経験がある小松清と一緒に東京を案内、深川の祭り、上野の美術館、銀座を案内し、おしやれで洗練されたパリジャンの身のこなしに感激しきり

であった。

昭和十三年、雄策は、名取洋之助の日本工房に入り、当時新しかった、電気広告デザイン、都市計画、宣伝ショー、漫画、飛行機等を取り上げた。この頃一緒に仕事をした土門拳と雑誌「NIPPON」の表紙を飾るなど、英文雑誌を制作した。土門拳との合作「東芝モートルのポスター」は、評判となった。そこには、土門の写真は、雄策の手になるデザインを望み、雄策のデザインもまた土門拳の写真を必要欠くべからざる関係となった。

第二次世界大戦では、全てが戦時体制となり同僚も戦地に向かった。雄策も海軍に徴収されたが、軍の要請により外国向けの日本宣伝雑誌の編集責任者の一人となった。

戦後、デザイナーの地位を向上するために「広告作家懇話会」設立に奔走、我が国で初めての「日本宣伝美術会」、通称「日宣美」が誕生、第一回の会員作品展が、銀座松屋で開催された。

グラフィック・デザインという言葉が一般化するのもこの頃である。昭和二十九年には、アメリカ、フランス、イタリアを旅行。帰国後、それまで原画の展覧会であったものを、印刷を主とした展覧会「グラフィック、55」を開催、注目を集めた。

そして、昭和三十五年東京オリンピック指名コンクールに当選、日の丸と五輪マーク、躍動感あるスタート直後の選手、聖歌をかざしたランナー、スキーのジャンプ、真上から見たフィギュア選手のポスターが、雄策の手によって制作された。

自著「離陸着陸」の中で、

「私はオリンピックのシンボル・マークに日の丸を大きく出した。これは、日の丸と考えてもいいが、本当は太陽と意識の方が強いのである。ただ、五輪のマークと赤い大きな丸のバランスに新鮮な感覚を盛り上げたかった。それによって日の丸もモダン・デザインとなりうると思った」

と語っている。

四十二歳、明治製菓のネオン広告塔で電通賞を受賞、「ニコ広告キャンペーン」で東京ADC賞金賞、「芸術選奨」受賞、ワルシャワ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ銀・銅賞受賞、平成三年、文化功労者に選ばれる。

新潟放送のテレビ番組に出演、出演後の色紙には、「亀倉雄策」とだけサイン、新潟日報社のバッジのデザインも行っている。

「僕はデザイナーになりたくてなった」と、我が国のデザインを一回りも二回りも大きくした雄策の功績は、誰もが認めるべき世界のデザイナーである。

燕市出身の画家、横山操と共にふるさとから中央で活躍した逸材であった。

平成九年、東京で八十二歳歳の生涯を終えた。平成十一年、新潟県立近代美術館で「デザイナー・亀倉雄策展」が開催された。

(3) ゲストの紹介

・金子 隆弘さん(新潟東ロータリークラブ元会員、蒲原神社宮司)

(株)新潟三越伊勢丹

クリニックリーダー 林 奈緒さん、スニーリーダー 今村瑞恵さん、営業企画担当マネージャー 中山 道彦さん、秘書担当 籠島 麗子さん

(4) ビジターの紹介

・市川務君(新潟東RC)・柴野俊子君(新潟万代RC)、
・銭高一善君(大阪RC)

(5) 清水建設(株)新潟営業所所長

森井満男君退会挨拶

(6) 委員会報告

・宇尾野 隆次年度会長より次年度委員会組織についてご協力をお願い

・玉親睦委員長 4月5日前橋クラブとの合同観桜会、新潟クラブの例会後にバスで参ります。まだ募集しておりますので、早めにお申し込み願います。

(7) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

小林 敬直君 徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

新田 幸壽君 本間 彊君

小林 悟君

(8) ニコニコボックス紹介(八島 進委員)

・竹石 松次君 金子隆弘さん、柴野俊子さん、市川務さん、銭高一善さんをお迎えしてニコニコします。

・森井 満男君 3年間ありがとうございました。

・山本 正治君 3月10日、大学の卒業式を無事終えました。約900名を社会に送り出しました。学長式辞はNHK朝ドラ「あさが来た」の広岡浅子を取り上げました。学長として、入学式までヒマとなります。

・内山清君 大事な浪江町写真展をドタキャンしてしまい、大変ご迷惑をかけました。写真展大成功を祝して。結婚記念日の花束、ありがとうございました。

・松本 英明君 大震災より5年がたちました！！私は3/15に新潟市に避難して来て、あれから5年、市内に住んでいます。福島県のいわき市に住居は有りますが毎週、金曜日抗がん剤治療の為、大学病院に通院中です。そんな訳で新潟にはもう少しお世話になると思います。ロータリー会員の皆様、宜しくお付き合いの程お願い申し上げます。皆様の友情に感謝します。

・岡田 茂久君 私事ですが、一人娘が無事に第一志望の県立高校に合格致しました。ようやくピリピリムードから解放されました。

・山田 眞君 昨日、ホワイトデーに、結婚記念日の素敵なお花をいただきました。ありがとうございました！我が家には、過去にいただいた花の鉢が3つ並んでいて、妻が嬉しそうに面倒をみているのですが、今年は既に3つとも花が咲いていましたので、新しくいただいた花を含め、部屋がとても賑やかになりました。妻からは「いつも本当にありがとう！」と大変喜ばれているのですが、なんとなくうしろめたい気持ちで笑顔でうなずきながら、酒に逃げました。ロータリーには本当に感謝の気持ちで一杯です。

・金親、小飯田、塚田、鈴木、松本、近藤、細野、徳永、樋熊、吉田、玉、新田、白勢、川崎、田中(堅)、小田、竹石、小林(建)、若杉、内山、斎藤 浪江町の写真展が成功裡に終えることが出来ました。

(9) 同好会報告

・高橋 康隆料理研究会幹事 10日、第15回料理研究会を10名の参加で行いました。肉まん、あんまんを生地作りから始め、具を入れ、きんちゃく型にしました。次回は、天津飯と麻婆豆腐の予定です。ご案内致しますので、私か吉田幹事にお申込み下さい。

(10) 会員スピーチ「百貨店の販売」

一皆様楽しんで下さい

(株)新潟三越伊勢丹 代表取締役社長 浅田龍一君

(11) 3月15日例会の出席率 79.31%

会員数101名(出席免除会員 9名)

出席者69名(出席免除会員6名を含む)

(2週間前メーク後 88.66%)

3月29日の例会予定

卓話「テレビでは聞けない天気の話」

NST 気象予報士 宮崎由衣子氏